

免許合宿日記ならぬ雑記

1年 塩野谷

1 前置き

今回なぜ自分はこのような記事を書いているのだろうか。それに深い理由があるわけもなく、単にゲームについて書くネタがなくお見せできるような技能も持ち合わせていなかったからである。そんなところにちょうど良く合宿免許というイベントが転がってきたのだから、これ幸いと飛びついた次第である。当初、日記形式を想定していたのだが、諸般の事情からこのような形式を採ることとした。よほどのことがない限り二度と体験することがないであろう免許合宿というものについて、自己満足の一環として書いていこうと思う。
<注意>記事内で特に断りのない限り免許は運転免許のことを指します

2 合宿のすゝめ

免許を取得するにあたり、おそらく免許取得がはじめてならば教習所で学ぶことになるだろう。そのときに**通い**か**合宿**かという選択肢がまず存在する。ここで自分は、合宿を強くオススメしたい。

合宿をすすめる3つの理由

1. 取得までの期間

合宿ならばAT車の場合最短14日、MT車の場合最短16日で教習所を卒業できる。一方通いの場合は、日々の授業後など自分で時間を作って通う必要がある。また夏季などは通う人も多く、なかなか教習の予約が取れないという現

状がある。その結果卒業までに数ヶ月もかかってしまう。

2. かかる費用

合宿と通いには費用の面でも大きな差がある。合宿はとにかく安い!自分の場合、ホテルシングル・三食付にMT車分の1.2万円をプラスして25万円で卒業できた。平均して25万円くらいと考えていいんじゃないだろうか。9月いっぱい夏休みの電通大生にオススメしたいのは、9月中旬に入学のプラン。この時期はどこの合宿もかなり安い。三食付いて25万程度の合宿に対して、通いの教習所は軒並み30万円くらいと大きな差だと思う。また合宿では卒業まで追加料金が一切かからないことが多い、しかし通いの場合は授業、検定すべてに追加料金が発生しかねない。検定に落ちたらプラス数千円のプレッシャーは大きいだろう。

3. その他のお得

合宿にいったついでに観光をすることも不可能ではない(自分は山形ということで山寺に行ってみた)。交通費もある程度支給されることがほとんどなので、旅費を浮かせてついでに観光することも。合宿は毎日技能教習と学科教習が2、3時限ずつ組み込まれたスケジュールとなっていた。これにより前回の技能教習から時間を空けることなく学ぶことができる。予約が取れなければ一週間は普通に空いてしまう通いに比べ、合宿では技能の上達も早くなることだろう。合

宿のシーズンは教習所にも活気があり、場合によっては歓迎イベントが催されていることもある。通いでは体験できない楽しみがきっとあるはず…。



3 現地での状況

現地での状況がどのようなであったかを語ることに何の意味があるか分からないが、語っていく。

今回の自分が赴いたのはとある山形の教習所、お世話になった教習所の不利益とならないよう名前は伏せさせていただく。現地に到着したのは正午をすぎたところで、雨の降るなかであった。まず驚かされたのは、教習所のトイレの一言“ 一步前チン ”(以降に画像掲載)ではなく、現地到着後ガイダンスを受けその日のうちに技能教習でAT車を運転したことであった。誰しものがガイダンス後はホテルに帰れるものと思っていただけに、驚きも大きかった。ここから16日間で運転をマスターする為の過酷な日程が始まった。教習は一人ひとりに組まれたスケジュールに沿って行われ、1時限目は朝の7時からである。ホテルから教習所までは送迎バスで40分ほど、ということは7時から教習がある人は必然的に6時のバスということになる。朝が弱い人にとって合宿は過酷なのだ。教習については後で改めて話すとして、ここでは少し日常のほうを語っていく。同年代が多いだらうという予想のもと

赴いた自分であったが、時期なのか少し年上の先輩方がほとんど、という全員であった。普通免許の取得が可能な最年少なのだから当然といえば当然なのだが、大学1年で取る人は少ないのかもしれない。一人寂しく現地に赴いた自分であったが、親切にもいろいろな人が話しかけてきてくれ、合宿中寂しさを感じることはなかった。(16日間一人ぼっちは誰かやってください、自分には無理です)現地で仲良くなった人とは、教習や教官についての情報も共有でき、とても貴重な情報を得ることができた。現地での生活範囲はほぼ教習所とホテルに限定される。近くのコンビニやスーパーに出向くことは何度かあったが、あまり遠くに行こうという元気も時間もなかった。朝から夕方(場合によっては夜)までの教習を終え、ホテルに戻り夕食を食べると11時半には寝るという生活リズムが出来上がっていた。毎日がこの繰り返しであったため、日記を書くことを断念(毎日が同じ繰り返し、内容が昼食と夕食でいいなら書けそうだが)。ゆえにこの雑記という形を取るに至った。11時半に寝るのは、そうでもしないと朝起きれないという必要に迫られてのことであった。事実帰ってからはいつも通りの怠惰な生活に戻っている。教官は親切で、地方だからといって方言というわけではないので心配なく。(何人かは方言の教官がいたらしい)



4 教習と検定と自分

教習は50分を1時限として行われた。その長いようで、短くてやっぱり長い教習の時間についてである。

1. 学科教習

50分のうち3分の1が教官の口頭とホワイトボードによる説明と教本の読み合わせで、残り3分の2がDVDを見るという時間配分がほとんどであった。教官や内容に応じて若干の変化は当然あるが、基本はこんな感じである。どこの教習所も同じようなものであろう。教官の教本読み合わせでは、仮免学科試験で出るところをズバリ教えてくれるので聞き逃さないように！重要なことだが、授業中居眠りをしていた場合、その学科教習を受けていないこととして処理され追加料金を請求されることがあるので要注意！（実際そこまで気張ることもなかった。正直眠いものは眠い、11時過ぎに寝てもそうなんだから仕方ない。）

2. 技能教習（教習所内）

所内は結構狭いので上手く使って教習を行う。教官の指示に従ってコースを走ることが基本となる。路上ではなかなか出来ないこと（坂道発進とかエンストとか）をやってみるところでもある。決められたコースを一人で走る無線教習が所内で一番楽しいことだと思われる。無線の指示もほぼないので自由に走ることが出来る。あとは第二段階（仮免取得後）であるが、急ブレーキと高速コーナーリングを体験する。自分は雨のなか濡れた路面で体験したため、結構危ないところであった。

3. 修了検定

仮免許を取得するための技能試験であり、入学後初の検定。検定員はいつもの教官であるが、何もしゃべり掛けてこないところが緊張感を高める。落ち着いて

出来れば特に問題はないはず。検定はどれもそうだが危険行為（一時停止無視など）で教官の補助を受けるとその時点で不合格となる。見通しの悪い交差点はとくに注意が必要だと思う。コースに関しては無線コースに毛が生えた程度なので緊張しすぎないことが大切（緊張しなさ過ぎも危険）。もしも、本当にもしも不合格になってしまったら補習を受け後日再び挑戦すればよい。（合宿なら大抵追加料金はかからない）

4. 仮免許学科試験

普通に学科試験である。正誤問題50問中45問以上正解で合格となる。問題が問題集とほぼ同じ（場合によっては全く同じ）なので問題集をやっておくことを勧める（これは本免許の学科試験にも言える）。（“安全地帯”についてはちゃんと勉強すべき）技能検定、学科試験両方に合格することで仮免許が取得できる。

5. 技能教習（路上）

仮免許を取得したら早速路上での教習が始まる。自分の場合、午前中に修了検定および仮免学科に合格し、午後からは路上に出たの教習であった。路上では所内の速度の倍以上の速度で走行することになり、最初のうちは怖いかもしれないがすぐに慣れてしまう。自分が車に乗って運転していると、どれほど自転車がドライバーにとって危険を感じさせるのかが良く分かる（高校生には要注意!!）。また地方ということもあり、夜は大通りを離れるとかなり暗かった（夜道の高校生はもっと危険!!!）。卒業検定に備えて、道順や標識・標示（特に一時停止や最高速度）などを覚えておくと本番であせることなく走行することが出来る。卒業が近くなると何人かで高速教習を行う。スピードに最初こそ戸惑うかもしれないが、慣れてしまえば信号も歩行者もないカーブのゆるいコースに感じられ

る。(教官曰く“ 高速で急ハンドルは絶対にやめてくれ、死ぬ ”とのこと)

6. 卒業検定

教習所を卒業するための技能試験である。路上で決められたコースを走り、途中からは自分で決めたコースを走る。自分で決めたコースとはいうものの、実際は路上教習で走ってきたコースなので、こちらも落ち着いて普段通りやればよい。路上での検定が終わったら次は教習所内での縦列駐車 or 方向変換。どちらをやるのかは、検定前の説明で教えられた。こちらは丁寧に確認すべきポイントを抑えながらこなしていく。もしも不合格でも補習を受けて再挑戦すればよい。卒業検定に合格したら、免許取得はもう目の前。

5 免許を手にするとき

教習所を卒業したら行くべきところはただひとつ、地元(住所地)の免許センターである。そこで本免許学科試験に合格すればついに念願の免許取得である！学科試験は仮免許のときの内容に、第二段階で習った内容がプラスされたもので特に難しいことはない。問題は正誤問題 90 問とイラスト問題 5 問の計 95 問で 100 点満点である(イラスト問題は 1 問につき正誤問題 3 問で構成されている)。90 点以上が合格で原則当日中に免許が交付される。不合格の場合は後日改めて受験する(1 回の受験に 2100 円がかかるのでしっかり勉強して出直す。なかなか合格できないときは免許センター周辺の早朝学科教習を受けることを検討してみてもどうか)。得点については、開示されるか否かは免許センターによって違う

らしく、不合格でも開示されたという情報や開示されなかったという情報があり、受験の際は各自がセンターでの説明をよく聴く必要がある。学科試験合格後は免許交付の手続きが行われる。このとき免許証の写真撮影も同時に行われるため、服装などその他もろもろには注意が必要になるだろう。あまりにも恥ずかしい格好は数年間の身分証明としてどうだろうか、自己責任なので良く考えて行動してほしい。

6 終わりに

ここまでだらだらと書いてきましたが、自分の文才の無さにはただただ落ち込むばかりであります。自分の今回の運転免許取得という目的は、多くの人の支えがあったことで達成することが出来ました。この場を借りて、お世話になった皆様方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。またもしもここまで(ここだけでも)読んで下さった方にも感謝申し上げます。ありがとうございました。(とこのように一丁前に謝辞を述べてみたかったです、すみません。しかし本当に感謝しています、ありがとうございました。)

7 終わりの先に

今回この雑記に記載されている内容は個人の感想であり、免許合宿がこうであるというものではありません。あくまでも一個人の体験と意見であることをご理解ください。皆様のご意見、ご感想は心のうちにしまっておいて下さい。それでは、ここまでお付き合いいただきありがとうございました。(なお 6,7 は故意に文体を変えていますのでご了承下さい)